

①メンバー各々の意見を発表する

A 駒場で自家発電をする

不要の紙を液体燃料の原料にする。

紙は学生や教職員がもってきて、ポイントをつけることにより貢献度を計れるようにする。

B 学生の意識を知る

自分たちの意識の低さを自覚することで環境配慮の意識を高める。

C 無意識のうちにできること

意識は必要だが、行動は無意識のうちにできることじゃないと続かない。

楽しさがなければならない。

D 学生のキャンプラで、住環境をよくするという意識で不便を改善したり節約をしたりする。(自身の経験からのポイント)

学生出資でやるのがポイント。

窓ガラスに UV カットシートをつけることで電球を変えたりする。

ドアの隙間にスポンジを入れるとエアコンのむだがなくなる。

学内で出たごみを燃料にして発電をする。

②互いの意見に対して意見を述べる

まず意識や省エネ・節電行動の基礎となる事柄について考える

・ Bに対して

デモンストレーションをおこなうなど実体験をベースにするのが有効。

・ Cに対して

不公平感をなくすために全員でやれることがいい。

・ BとCをまとめて

節電・省エネに必要なのは、体験をベースにした意識向上、多くの人を巻き込んだ意識化（←“自分だけが頑張っている”“頑張らなくちゃいけない”）されないアクション。

次に具体的な方法について考える

・ Aに対して

紙ではなくもっといらないものにしたら？

→紙ならシュレッダーで裁断されたものにすればよい

→でも逆に紙の浪費が進んでしまうかもしれない…？

教授が研究を実践するという形にすれば継続性が見込める、学生は一種の研究員として関わる。いきなり大がかりにやるのではなく、小規模にスタートして徐々に大きな動きにしていくのがスムーズ。

・ Dに対して

各クラスでの電力の見える化（節電のワーストクラスを目立たせる）

部室（自分たちが使う場所）での節電状況ややり方を掲示板でアピールして、他のサークルにも波及させる。

キャンпра使用料をとり、環境対策費にあてることで、環境によいこととお得なことをリンクさせる。

③さらに話を進める

- ・学生自身の話にして節電の話にすることが必要（だからサークル単位でスタートする）
- ・学生から環境改善費用を募金で集める（今の募金量でどれくらいの人工芝ができるか分かりやすくリアルタイムで表示するなど、やる気が出るように工夫する。）ダイエットと一緒に！